

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Transfusion. 52(2012)181-187	A型肝炎ウイルス(HAV)の不活化に対する変異株の影響に関する報告。米国における人血清アルブミン(HSA)のパスツリゼーションについて、各製造販売業者でHAVの不活化能力に最大3.9Logの相違があることが報告されていることを受けて、HAV変異株のパスツリゼーションへの感受性に関して実験的に評価した。5%又は25%のHSAにHAV HM175株の4種の細胞変性変異体をスパイクし、58±1℃、600±10分の条件でウイルス不活化が評価された。その結果、4つの変異体はウイルス減少率に有意な差がある2つのサブグループに分けられた。また、5%HSAよりも25%HSAにおいてウイルス減少率が高かった。この結果より、HAVの変異型とHSAのタンパク濃度がパスツリゼーションによるHAV不活化に影響を及ぼすことが示唆された。
2	B型肝炎	CDC/MMWR. 60(2011)1087	米国における移植を介したB型肝炎ウイルス(HBV)感染の報告。2010年3月、外傷により脳死となった36歳男性がドナーとなり、6つの臓器が5例のレシピエントへ移植された。米国疾病予防管理センター(CDC)より、そのうち3例において移植後の急性HBV感染が起きたことが報告された。移植前、ドナーは血清のスクリーニング検査によりHBV関連検査が陰性であった。しかし、感染判明後にCDCにより同一検体のNAT検査がされた結果、低レベルのウイルス血症(<29HBV DNA IU/mL)が判明し、死亡直前にHBV感染があったことが明らかとなった。
3	B型肝炎	http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/default.htm	米国FDAによる、血液製剤のB型肝炎ウイルス(HBV)感染リスクを低減させるための核酸検査に関するガイダンス案。血液事業者に対し主に以下の事項が勧告されている。 ・人全血液及び血液成分については、HBsAg及びHBcAb陰性の検体に対しHBV NATを実施し、検出限界は100 IU/mLとする。原料血漿についてはHBsAgが陰性の検体に対しHBV NATを実施し、検出限界は500 IU/mLとする。 ・ドナー適格性があり、他の感染症関連検査がすべて陰性であれば、輸血用人全血液、血液成分及び原料白血球については、HBV NAT、HBsAg、HBcAbが陰性であることをもって、使用可とする。 ・NAT結果が陽性の場合、自己血を除いて、供給してはならない。永久供血延期または無期限供血延期とする。 ・供血者の適格性再確認には、少なくとも陽性となった採血から6カ月後にHBV血清学的検査及びHBV NATを行い、その結果により、永久的供血延期かエントリー可能か評価する。
4	B型肝炎	Virology Journal. 2012, 9:2	鶏の血清及び肝に存在するB型肝炎ウイルス(HBV)に関する報告。中国において、129例のニワトリの血清検体を検査したところ、HBs抗原、抗HBs抗体、抗HBc抗体の陽性率はそれぞれ29%、54%、17%であったが、HBe抗原及び抗Hbe抗体の検出はいずれも10%以下であった。そのうちHBs抗原とHbe抗原の両方に陽性であったのは3例で、3例の検体を電子顕微鏡で観察した結果、ヒトHBVと類似した粒子が2例確認された。また、ニワトリの肝検体193例についてHBV-DNAの検出を行ったところ、2例において同一のHBVが検出された。それらの遺伝子配列を確認した結果、2種類の異なるヒトHBV株とそれぞれ97.9%、92.2%の相同性を有していた。もし今後このウイルスがヒトHBVと同一であると確認されたら、重大な危険をはらんだ状況となると考えられる。

ID	感染症(PT)	出典	概要
5	B型肝炎	J Clin Virol. 52(2011)151-154	B型肝炎ウイルス(HBV)ワクチンが無効であった慢性B型肝炎感染の症例報告。2006年4月、同性間性交渉を持つ男性に対してHBVワクチン接種が実施され、ワクチンの増量の後2007年11月には抗HBs抗体が2社の検査法で161mIU/mL及び62mIU/mLになった。2009年12月、患者が疲労感と筋肉痛のため受診したところ、ALT上昇が見られ、検査により慢性HBV感染症であることが確認された。系統発生解析によりこのウイルスはHBVジェノタイプFに一致した。これは、HBVワクチンを接種され抗HBs抗体価が10mIU/mLを上回った者が、HBVジェノタイプFに感染し、慢性化した初めての報告である。
6	C型肝炎	Ann Intern Med. 156(2012)263-270	C型肝炎ウイルス(HCV)スクリーニングの費用対効果に関する報告。米国において、最も感染者が多いとされる1945～65年生まれの人々に絞って積極的にHCVスクリーニングを行う場合の費用対効果について、コンピュータモデルにより解析を行った。その結果、現在のリスクに基づくスクリーニングに比べて、出生コホートスクリーニングを実施すればHCV持続感染者を新たに約80万人検出でき、検出した感染者に標準治療(ペグインターフェロンとリバビリン)を行うと質調整生存年(QALY)当たりの費用15,700ドルで死亡を約8万人減らせると推算された。また、遺伝子型2、3型の患者には標準治療を行い、1型の患者には標準治療と直接作用型抗ウイルス薬(DAA)を併用するとQALY当たりの費用35,000ドルで死亡が約12万人減少すると推算された。
7	C型肝炎	Arch Virol. 156(2011)1111-1115	サラセミア患者及び透析患者におけるC型肝炎ウイルス(HCV)感染に関する報告。イラン南東部Kermanで、サラセミア患者181例と透析患者203例におけるHCV感染と輸血期間、透析期間等の関連性について調査が行われた。HCV感染の診断はELISA及びRT-PCRにより行われた。サラセミア患者では81例(44.7%)がHCVに感染していた。HCV感染者と非感染者に性別の差はなかったが、年齢及び輸血頻度は有意に感染者の方が高かった。また、透析患者では64例(31.5%)が感染していたが、感染者と非感染者において年齢及び性別に有意な差はなかった。サラセミア患者の調査結果より、年齢が高い患者や輸血期間の長い患者は長期間HCVに曝露されることからC型肝炎のリスクが高まることが考えられた。
8	C型肝炎	CDC/MMWR. 60(2011)1697-1700 ProMED-mail 20111223.3664	米国における移植を介したC型肝炎ウイルス(HCV)感染の報告。2011年3月、ケンタッキー州において外傷性脳損傷により死亡した中年男性のドナーから腎臓と肝臓が3例のレシピエントに移植された。肝臓のレシピエントは移植前よりC型肝炎と診断されていたが、移植前HCV陰性であった腎臓のレシピエント2例においても移植後に肝酵素値の上昇が見られ、HCV-NATが陽性となった。ドナーは移植前の臓器及び組織のスクリーニングでは抗HCV抗体陰性であったが、保存検体についてHCV-NATを行ったところ陽性であった。ドナーは外傷による入院時に6単位の輸血を受けており、現在この血液のドナーについて調査が行われている。
9	E型肝炎	Arch Virol. 156(2011)1989-1995	中国のブタとヒトにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の陽性率に関する報告。中国雲南省の養豚場と屠殺場から収集されたブタの血清、肝臓及び糞便検体について、血清学的検査とRT-PCRによりHEVの陽性率が調査された。また、加えて173例のヒト血清についても調査された。その結果、ブタ血清621例中490例(78.9%)が抗HEV抗体陽性であった。ヒト血清については173例中69例(39.9%)が陽性であった。HEV RNAは肝臓95例中6例、糞便60例中5例において検出され、ヒト血清では1例において検出された。12例のHEV株の配列分析により、9つの異なる塩基配列が確認され、これらは全てHEV遺伝子型4Iに分類されることが推測された。このことから、雲南省のブタとヒトにおいてHEV遺伝子型4Iが広まっていることが示唆された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
10	E型肝炎	Vox Sang. 102(2012)182-183	血漿分画製剤原料血漿プール中のE型肝炎ウイルス(HEV)に関する報告。ヨーロッパ、北米、中東及びアジアから得られた75の原料血漿プールについて、HEV RNAと抗HEV IgG抗体の有無を調査した。その結果、全体の約10%はHEV RNA陽性であった。陽性結果は北米、ヨーロッパ、アジアからのプールで得られ、広範な地理的分布を示したが、HEV RNA量が1,000 copies/mLを上回るものはなかった。検出されたHEV株の系統発生的分析を行ったところ、アジアのプールではその地域で一般的なジェノタイプ4ウイルスを含んでいた一方で、ヨーロッパと北米のプールではジェノタイプ3ウイルスが発見された。このことから、不活化処理が期待できないような血漿プールにはHEV RNAの検査をすべきであることが示唆された。
11	E型肝炎	Vox Sanguinis Letter. 6 Jan, 2012	スウェーデン、ドイツ及び米国における献血血漿中のE型肝炎ウイルス(HEV)に関する報告。リアルタイムRT-PCR法を用いて、スウェーデン、ドイツ及び米国由来の献血血漿中のHEV-RNAについて調査された。その結果スウェーデン由来血漿においては95,835例中12例、ドイツ由来においては18,100例中4例が陽性であったが、米国由来においては51,075例中で陽性例が確認されなかった。HEV株の分析の結果、陽性となった全ての症例が遺伝子型3であることが示された。また、陽性検体の多くはウィンドウ期の献血であった。
12	E型肝炎	Vox Sanguinis. Sep 29, 2011	英国における献血者プール血漿中のE型肝炎ウイルス(HEV) RNAの検出に関する報告。血液供給へのHEV感染リスクを調査するために、英国において収集された880例の血漿ミニプールを対象に血清学的及び分子学的調査が行われた。それぞれのプールは48人分の献血から構成されていた。検査の結果、6例(0.7%)のプールにおいてHEV-RNA陽性であり、この6例は全て抗HEV-IgG抗体陽性であった。また、HEV-RNA陰性プールのうち100例を検査したところ、73%がHEV-IgG陽性であったが、HEV-IgM陽性のプールはなかった。これらの結果は血液製剤のHEV感染リスクの可能性を示したものの、輸血後のHEV感染の程度については十分な調査がなされていないため、HEVと血液製剤の安全性については更なる調査が必要である。
13	HIV	CDC/MMWR. 60(2011)985-988	米国におけるHIV-2感染症サーベイランスの報告。1988年～2010年6月のHIV-2感染症サーベイランスで、米国疾病対策センター(CDC)が定めたHIV-2感染の定義を満たす症例は166例報告された。同期間において、米国のHIV感染症例全体数は約140万例であるため、HIV-2感染例は0.01%ほどであった。地域別解析によると、米国北東部が110例(66%)と多く、特にニューヨーク市が77例(46%)と集中していた。出身国別では西アフリカが圧倒的に多く、81%を占めていた。報告症例の89%は非ヒスパニック系黒人であり、58%が男性、診断された年齢の中央値は39歳であった。
14	HIV	IASR. 32(2011)290-292	日本の献血におけるHIVの検査状況の概略。献血血液のHIV抗体検査は1986年から開始され、2004年より20本プールに対して核酸増幅検査(NAT)を行っている。また、ウィンドウ期の献血を防止するために、問診票での質問を設けている。国内のHIV陽性献血者数は2009年102件、2010年86件であった。男女別ではこの5年間で男性が96%を占めている。都道府県別では東京、大阪が他と比べ高い。年齢群別では10～30代の若い世代が80%前後を占めている。2010年のHIV陽性血液は全てHIV-1であり、サブタイプ別内訳はBが77件(90%)、その他組換え流行株のCRF01_AEが6件、CRF01_AE/Bが1件、CRF11_cpxが1件及びNAT陰性が1件であった。輸血によるHIV感染が確認されているのは1997年～2003年の合計4例であり、2004年の20本プールNAT実施以降、輸血感染事例は起きていない。
15	HIV	ProMED-mail 20110917.2832	インドにおけるサラセミア患児へのHIV感染に関する報告。インド西部において、先天疾患サラセミアの小児23例が、輸血を受けた後の検査でHIV陽性であることが判明した。グジャラート州の病院で2011年1月から8月に輸血されていた小児であった。州政府報道官の話として、感染のあった小児らは、複数の病院で輸血されていた、と報道されているが、別の新聞では、保護者らが輸血を受けたのはこの病院だけだったと述べている、と発表されている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	HIV	Transfusion. 52(2012)431-439	核酸増幅検査(NAT)によるHIV-1の検出に関する報告。欧州においてHIV-1 RNA陽性供血血液5例が3つの異なるNATで偽陰性となったことの原因調査のために、当該検体について異なる設計のHIV-1 NATシステム12種類を用いて比較調査した。各アッセイでHIV-1変異株の相対的な増幅効率を調査し、偽陰性NATアッセイが増幅する領域の変異を塩基配列決定することによりプライマーとプローブの比較を行った。その結果、偽陰性結果のモニターターゲットNATと同様の方法で設計された他のNATアッセイにも、ウイルス変異の検出において欠陥が見られた。それぞれの例において、増幅対象領域の配列が変異し、アッセイに用いるプライマー及びプローブとの不一致を起こした。デュアルターゲットアッセイでは増幅効果が減少したものがあつたが、偽陰性結果は示さなかつた。これらの結果より、モニターターゲット領域のNATスクリーニングアッセイはデュアルターゲットアッセイよりも配列の変異に対してより脆弱であることが示唆された。
17	HTLV	J Med Virol. 84(2012)327-335	国内のHTLV-1感染率に関する報告。2006~2007年に、国内の初回献血者1,196,321例におけるHTLV-1感染率が調査され、そのうち3,787例が抗HTLV-1抗体陽性であると確認された。献血年齢層以外の年齢層に適合曲線を適用したところ、国内の0歳~99歳における現在のHTLV-1キャリア数は108万人と推定された。これは1988年に報告された値よりも10%少なかつた。調整後の全体的な感染率は男性、女性それぞれ0.66%及び1.02%と推定された。キャリア数のピークは70歳代で見られ、これは1988年のデータベースで50歳代に観察されたピークがシフトしたものである。キャリアは元々多いと言われている九州だけでなく日本全土、特に首都圏で増加していた。
18	レトロウイルス(XMRV)	HPS Weekly Report. 5 Jan, 2012	供血における異種指向性マウス白血病ウイルス関連ウイルス(XMRV)の影響に関する評価の報告。欧州委員会からの要請を受けて、2011年7月に欧州疾病対策センターは供血におけるXMRVの影響についてリスクアセスメントを発表した。現在得られている証拠の大半はXMRVと慢性疲労症候群(CFS)の間には因果関係がないという結論を支持している。現在、ヒトにおけるウイルスの潜在的な役割を示す十分な証拠は得られていないものの、輸血の安全性に影響を及ぼす別の新興感染因子である可能性はあり、他の因子と同様に最善の科学に基づいた迅速かつ効果的な行動が不可欠である。
19	レトロウイルス(XMRV)	Sciencexpress. 334(2011)814-817	Blood XMRV Scientific Research Working Group (SRWG)による、異種指向性マウス白血病ウイルス関連ウイルス(XMRV)を含むマウス白血病ウイルス(MLV)と慢性疲労症候群(CFS)に関する報告。以前にXMRV/MLV陽性と報告された被験者15例(うち14例がCFS患者)及び以前にXMRV/MLV陰性と報告された健康ドナー15例から採取した血液検体を用いて、再度XMRV/MLV-DNAの検出、ウイルス複製能及び抗体検出の検査を行った。サンプルをコード化し二重盲検下で9か所の研究所に分配し、検査を行ったところ、2か所の研究所においてXMRV/MLV陽性と判定されたサンプルがあつたが、同一試料の反復では不一致が見られ、CFS患者とコントロールとの間で陽性率に差はなかつた。今回の試験により、XMRV/MLV検査に再現性は確認できず、供血者へのスクリーニング項目として採用する正当な理由はないことが示唆された。
20	インフルエンザ	CDC/Seasonal Influenza FluView. 15 Oct, 2011	米国インフルエンザサーベイランスにおける、新規インフルエンザAウイルスとしてのブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。米国メイン州において、H3N2ウイルスの2011年5例目の感染患者が報告された。患者は発症の前週にブタと接触していた。患者は入院しておらず、回復している。現在調査中であるが、家族等の接触者に対する感染は確認されていない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
21	インフルエンザ	CDC/MMWR Dispatch. 23 Nov 2011	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年11月、アイオワ州においてS-OtrH3N2に感染した小児3例が報告された。全員入院はしておらず、既に回復している。3例は互いに接触しており、最近のブタへの接触はなかった。S-OtrH3N2のヒト感染は未だアイオワでは他に確認されておらず、調査が進められている。今回の3例を含めて、近年S-OtrH3N2の感染が10症例報告された。このウイルスは北アメリカのブタの間で循環しているブタインフルエンザウイルスA(H3N2)とパンデミック2009年インフルエンザウイルスA(H1N1)との再集合体であると考えられている。
22	インフルエンザ	http://abcnews.go.com/blogs/health/2011/11/25/new-swine-flu-strain/	新規ブタインフルエンザの発生報告。2011年7月以降10例の米国人がS-OtrH3N2ウイルスに感染した。このウイルスは北米で循環しているブタインフルエンザH3N2ウイルスと、2009年に流行したH1N1ウイルスが結合した新しいウイルスである。人々は免疫をまだ獲得していないため、健康へのリスクとなり得る。以前の7症例は全て、患者か患者の身近な人がブタに接触していたが、最新の3症例ではブタに接触した者はおらず、3人の子供が同じ保育園の集会に参加していたことから、ヒトとヒトの接触がウイルス感染に関連していると示唆された。米国疾病予防管理センター(CDC)はS-OtrH3N2に対するヒトワクチンを作ることが可能な「候補ワクチンウイルス」を作成し製造業者に送付した。
23	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/media/haveyouheard/stories/H3N2_virus2.html	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年11月、米国疾病予防管理センター(CDC)は、散発的にブタから感染しているインフルエンザ症例が新たに2例報告されたと発表した。メーン州とインディアナ州の2例で、この2例の疫学的関連は未確認で、両症例でヒトへの伝播も確認されていない。患者2例は共にブタと接触していたことが確認されている。
24	インフルエンザ	CDC/MMWR Early Release. 23 Dec. 2011 MMWR. 60(2012)1741-1744	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。インフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスのマトリックス(M)遺伝子を有するインフルエンザA(H3N2)vウイルスによるヒト感染症について、直近の3例について報告された。インディアナ州の成人男性は2011年10月20日に発熱、咳、体の痛み等が発現した。発症前週にブタと直接接触していた。4日間入院したが、軽快している。ウエストバージニア州の小児2例(5歳未満)は同じ保育所に通っており、1例は11月19日、他の1例は11月29日に熱症状などが発現した。2例とも最近の渡航歴や豚との接触歴がなく、ヒトからヒトへの伝播と考えられた。
25	インフルエンザ	ProMED-mail 20111224.3669	米国におけるブタインフルエンザA(H3N2)ウイルス感染の報告。米国の公衆衛生当局は、新たにウエストバージニア州の小児のH3N2ウイルス感染患者1例を確認した。米国において、2011年7月に感染例が初めて報告されて以降12例目の報告である。本症例はブタではなく、他のヒトから感染したことが確認され、患児の住むコミュニティ内である程度のヒト-ヒト感染が起きていることが示唆された。
26	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/media/haveyouheard/stories/Influenza_A_Variant.html	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異ウイルス出現の報告。米国ウィスコンシン州で、ブタ集団で循環が知られているH1N1ウイルスのヒト感染例が初めて報告された。本症例は発症前にブタに接触しており、ヒト-ヒト感染は未確認である。疾病予防管理センター(CDC)は、このウイルスが2009年パンデミックH1N1ウイルス由来のM遺伝子を保有している新たな再集合ウイルスであることを確認した。このウイルスはオセルタミビルとザナミビルに対して感受性があつた。この地域でのサーベランスが強化された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
27	インフルエンザ	J Infect Dis. 204(2011)1165-1171	米国におけるブタインフルエンザウイルス再集合体のアウトブレイクに関する報告。2008年、米国サウスダコタ州の大学生において報告されたブタインフルエンザA(H1N1)の三重再集合体(trSIV)の感染例を受けて、患者周辺の二次感染者の有無について調査を行った。血清中の抗体検査を行った結果、感染者と同じ家畜イベントに参加してブタと接触を持った学生42例中17例が陽性であり、他のブタとの接触歴がある学生9例中2例が陽性であったが、感染者との接触がありブタとの接触がなかった8例及びどちらにも接触していない10例では陽性判定となった学生はいなかった。このことから、今回のヒトtrSIV感染のアウトブレイクがブタへの接触に関係していることが確定されたが、ヒト-ヒト感染については確認されなかった。
28	インフルエンザ	ProMED-mail 20111119.3411	香港における新規ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルス感染の報告。香港の食肉処理場において、2011年8月から10月に採取されたブタ検体1000例の検査の結果、15例に一部ヒト遺伝子が組込まれた新型ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスが発見された。5月から7月に行われた前回のサーベイランスでも、16例のブタで確認されていた。このウイルスは米国において散発している新規ブタインフルエンザA(H3N2)とは異なるウイルスであると説明されている。
29	インフルエンザ	Zhonghua Er Ke Za Zhi. 49(2011)638-640	中国における欧州鳥由来H1N1ブタインフルエンザ感染の報告。中国江蘇省において、ネフローゼ症候群と診断され死亡した3歳の男児より欧州鳥由来H1N1ブタインフルエンザウイルスが検出された。患児の発症の7日前程に患児の家及び近所で短期間のうちに十数羽のニワトリが死んでおり、患児は死んだトリへの接触や病気のニワトリを摂取した経緯があった。現在感染経路について更なる調査が実施されている。
30	鳥インフルエンザ	China's Business Newspaper. 31 Aug. 2011	新規鳥インフルエンザウイルスの出現に関する報告。国連食糧農業機関(FAO)は、中国及びベトナムにおいて、既存の家畜ワクチンでは予防できない鳥インフルエンザ(H5N1)ウイルスの変異株(クレード2.3.2.1)が出現したと発表した。香港保健省の健康保護センターは、中国本土から香港に戻った59歳女性が変異ウイルスを持つH5N1鳥インフルエンザに感染したことを報告したが、香港において発生したH5N1ヒト症例は報告されていないとした。
31	鳥インフルエンザ	Journal of Veterinary Medical Science. 73(2011)767-772	台湾で分離されたトリインフルエンザ(H5N2)ウイルスのニワトリにおける病原性に関する報告。台湾で2003年と2008年に分離されたH5N2ウイルス(Taiwan03、Taiwan08)をニワトリに静脈内接種し、病原性を評価した。その結果、Taiwan03を接種した6週齢のニワトリは臨床徴候を示さず、接種後10日間生存した。Taiwan08を接種した8週齢のニワトリは8例中5例が5日後に重症な臨床徴候を示したが、全例が10日間生存していた一方で、6週齢のニワトリに接種したところ9日目までに全例が死亡した。このことから、Taiwan08の病原性の評価は、試験に用いたニワトリの週齢によって異なることが示唆された。次に、継代したウイルスTaiwan08-P4とTaiwan08-P8を用いて試験を行ったところ、静脈内病原性は継代数の増加に伴い増加したことから、Taiwan08がニワトリの集団の中で循環している間に高病原性に変化する可能性が示唆された。
32	ウエストナイルウイルス感染	Emerg Infect Dis. 17(2011)1531-1533	米国で発見されたシャチにおけるウエストナイルウイルス(WNV)感染の報告。2007年、米国の海浜公園においてシャチが徴候なく突然死亡し、検査の結果大脳及び小脳の点状出血や肺の変色、組織化が観察された。このシャチの組織を用いて病原体の検出を行ったところ、WNVの遺伝子が確認された。WNV感染が死因であるかは不明だが、観察された病変は他種の動物でみられたWNV病変と類似していた。クジラ目の動物について、疫学調査を行う必要がある。

ID	感染症(PT)	出典	概要
33	ウエストナイルウイルス感染	Transfusion. 52(2012)447-454	ウエストナイルウイルス(WNV)感染患者における血漿及び全血中ウイルス濃度に関する報告。米国において、WNVの個別NATを実施しているにも関わらず輸血感染症例が報告されたことを受けて、血漿及び全血検体に対するNAT検査の有用性を確認するため、WNV感染患者における血漿及び全血中のWNV-RNAをリアルタイムPCR法を用いて評価した。その結果、血清中抗WNV抗体陰性の患者29例においては全血より血漿中でWNV-RNAの濃度が4倍以上高かったが、抗WNV抗体陽性の13例においては血漿中より全血において10倍以上高かった。また、10例の抗WNV抗体陽性の患者について200日間の追跡調査を行ったところ、全血のウイルス量が血漿中より常に高かった。これらの結果より、血漿の代わりに全血を用いることによるWNV NATの感度向上は血清抗体陽性段階に限定されることが示唆された。
34	デング熱	ProMED-mail 20111114.3364	世界各地における2011年11月時点のデングウイルス感染状況の報告。 パキスタン：パンジャブ州のデング熱患者は計3,678例に上り、うち2,498例はラホール市の住民である。 インド：デリーにおけるデング熱患者数は945例に達するが、症例数は徐々に減少している。 台湾：2011年6月以降、高雄市において10例のデング熱症例が報告され、うち8例が55歳以上である。 韓国：韓国疾病管理予防センターの発表によると、2011年7月にデングウイルス感染と診断された32歳女性は、韓国国内で感染した可能性があることが判明した。 ブラジル：2011年の9カ月間で70万症例以上のデング熱症例が報告されているが、1～2月の報告数は2010年に比べ24%減少し、死亡例も25%、重篤例も40%減少した。
35	パルボウイルス	Journal of Virological Methods. 178(2011)39-43	パルボウイルスB19(B19V)に対するフィルター処理のウイルス除去能に関する報告。15～19nmのフィルターのウイルス除去能力を調査するために、アンチトロンビン、ハプトグロビン、免疫グロブリンのそれぞれの製剤にB19Vを添加し、フィルター処理後に感染力分析とquantitative定量的(Q)-PCR分析を行った。その結果、全ての検体において、フィルター処理後の検体は感染力が示されなかったが、ウイルスDNAはQ-PCRにより検出可能であった。しかし、15nmフィルター濾過後の溶液においてウイルスゲノムのサイズは約90%が0.5kb未満であることが確認された。この結果より、フィルター処理によるリダクションファクターは遊離のDNAにより過少評価されている可能性が示唆された。
36	パルボウイルス	Transfusion. 51(2011)1896-1908	パルボウイルスB19(B19V)の血液分画における分布及び持続性に関する報告。パルボウイルスに対するレセプターが赤血球膜上にあることを踏まえて、B19Vの血中分布を調査するため、B19Vをスパイクした血液及びB19V感染ドナーから収集された血液を用いてウイルスDNAの血液分画中の分布を調査した。ウイルススパイク実験では、血液を超遠心分離法によって分画とし、PCRによりウイルスDNAを定量したところ、DNAの約3分の1は血漿中で回収され、3分の2は赤血球に結合していた。また、血中B19V-DNA濃度が100IU/mL以上でIgM陽性期の感染ドナーにおいて、全血と血漿中のウイルスDNA量を比較したところ、DNA濃度の中央値は血漿中よりも全血中で約30倍高かった。一方で、血中のウイルス濃度が低く、IgM陰性時のドナーでは、全血対血漿比は約1であった。これらの結果より、血漿に対する全血のB19V-DNAの比は、ウイルス量低下とIgM反応性低下を伴って減少することが明らかとなった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
37	パルボウイルス	Vox Sanguinis. Jul 22, 2011	パルボウイルスB19(B19V)の液状加熱における熱感受性に関する報告。B19V遺伝子型2の熱感受性を調査するために、アルブミン、免疫グロブリン、ハプトグロビン、アンチトロンビンの製造における熱処理工程の直前に採取した検体にB19Vをスパイクし、60°C10時間の加熱処理を行いながら感染性を経時的に測定した。また、低pH免疫グロブリン溶液についてもB19Vをスパイクし、室温で14日間の処理を行った。その結果、B19V遺伝子型2はアルブミン及び免疫グロブリンにおいて急速に不活性化され、ハプトグロビンにおいては速度は遅いものの不活性化が確認された。一方でアンチトロンビンにおいては不活性化が限定的であり、10時間の加熱処理では感染性が残存していた。また、低pH免疫グロブリン溶液においては7日後に不活性化が確認され、これらの結果は全て遺伝子型1でのパターンと同様であった。このことから、B19Vの遺伝子型1及び遺伝子型2は、異なる血漿製剤の間で熱感受性が変化することが示された。
38	ウイルス感染	Arch Virol. 156(2011)1567-1574	中国における新規ブタサペロウイルスの報告。上海の養豚場で発生したブタの急性下痢、呼吸窮迫及び灰白質脊髄炎の病原体を同定するため、罹患ブタの検体を調査したところ、ブタサペロウイルス(PSV)が単離され、csh株という名称が付けられた。PSV.csh株を健康なブタに接種すると罹患ブタで認められたものと同じ症状が引き起こされ、このウイルスが本疾患の病原体であることが示された。これは中国において初の仔ブタに感染するPSVの報告である。
39	ウイルス感染	Clin Infect Dis. 53(2011)1208-1214	血小板減少を伴う発熱疾患の原因となる新規ブニヤウイルス(SFTSV)のヒト間感染に関する報告。中国東部において2007年に血小板減少を伴う発熱疾患を発症した1家族の7例に対し疫学的調査を行い、そのうち二次患者6例において血清検体の解析を行った。その結果、一次患者が発病した6~9日後に家族であった6例が類似症状により入院しており、二次患者はいずれも一次患者と個人的に接触していた。また、6例共にRT-PCR法によりSFTSV-RNA陽性であり、抗SFTSV抗体も陽性であった。また、1例の検体よりSFTSVが分離された。これらの結果より、家族内で生じた疾患がSFTSVにより引き起こされたこと、接触により他者へ感染が広がったことが示唆された。
40	ウイルス感染	ProMED-mail 20110923.2883	ペルーにおいて確認された新規ヒト病原体イキトスウイルスに関する報告。1999年、ブニヤウイルス属に属するオロプーチェ(ORO)ウイルスに類似したORO様ウイルスがペルーのイキトスの熱性疾患患者がから分離され、系統発生分析によりOROの新規再集合ウイルスであると判明、イキトス(IQT)ウイルスと命名された。2005-2006年にはイキトスにおいてアウトブレイクが発生した。血清学的調査から、OROウイルスの既感染があってもIQTウイルス感染は防げないことが示されている。
41	ウイルス感染	Transfusion. 51(2011)2620-2626	白血球除去血液製剤によるサイトメガロウイルス(CMV)感染に関する報告。1999~2009年に抗CMV抗体検査未実施の白血球除去血液製剤を使用した造血幹細胞移植(HSCT)患者を対象に、輸血関連CMV感染(TT-CMV)の有無についてプロスペクティブに調査した。その結果、CMV抗体陰性のHSCTを受けた23患者に対し、3,180供血者由来の1,847の血液製剤が輸血されたことが確認された。全ての患者はCMV DNAが陰性であったが、17患者に抗CMV IgG抗体の陽転化が起こった。陽転群は非陽転群に比べて1週間当たりの輸血量が顕著に多かった。このことから、HSCT患者における、抗CMV抗体検査未実施の白血球除去血液製剤によるTT-CMVのリスクは低く、抗CMV IgG抗体陽転化の原因は血液製剤中の移行抗体である可能性が最も高いことが示唆された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
42	ウイルス感染	Vector-Borne and Zoonotic Diseases. 12(2011)156-160	血小板減少を伴う発熱疾患(SFTS)の原因となる新規ブニヤウイルス(SFTSV)のヒト間感染に関する報告。中国において2006年に未知の感染症に罹患した2つのクラスターの患者13例の血清を用いて、RT-PCR法によるSFTSV-RNAの検出及び間接蛍光抗体法による抗SFTSV抗体検査を実施した。その結果、13例中12例においてSFTSV-RNAの検出又は抗SFTSV抗体力価の増加、セロコンバージョンのいずれかが認められた。残りの1例はサンプル量の不足により分析されなかった。また、対象患者全員に典型的なSFTSの臨床症状(発熱、血小板減少、白血球減少)があり、両クラスターの二次患者全員が一次患者の血液に接触後6~13日で発病していた。それぞれの一次患者と接触したが血液への曝露がなかった人においては発病した者がいなかった。このことから、SFTSVは血液との接触を通じてヒトからヒトへ感染することが示唆された。
43	ウイルス感染	Vet Microbiol. 152(2011)29-38	ヒトに対するラクダ痘ウイルス(CMLV)感染の報告。2009年、インドのCMLV感染症流行地域において、ラクダ調教師ら3例が手指の皮疹、小水疱、潰瘍等の臨床症状を認め、病変はオルソポックスウイルス感染の臨床的特徴を呈していた。ヒト及びラクダの血液、皮膚検体を検査したところ、CMLVに特異的なアンキリンリピート蛋白遺伝子由来243bp増幅産物が認められた。また、3例の血清においてウイルス中和抗体が検出されたことから、3例のCMLVへの感染が確認された。本症例は初めて確定されたCMLVのヒト感染例である。
44	ウイルス感染	Vox Sang. 102(2012)82-90	核酸増幅技術(NAT)に関する国際調査の報告。国際輸血学会(ISBT)により、eメールのアンケートを用いて、全血とアフエーシス供血におけるNATに関して国際調査が行われた。2009年8月に59カ国77人の専門家に送付され、37カ国50人が回答した。網羅される人口は計12億人であり、2008年にNATを実行したと報告した国の人口は計11億6千万人であった。2008年のNAT検査状況は以下の通り。 HIV-1: 3,350万人中2,189供血がHIV-1 NAT陽性であった。陽性結果の約2/3は南アフリカからであった。 HCV: 2,660万人中4,586供血がHCV NAT陽性であった。初回供血者陽性率が最も高い国はエストニアであった。 HBV: 902万人中3,081供血がHBV NAT陽性であった。ギリシャ及びマレーシアの陽性供血数は合計1,517件であり高かった。 この調査は、供血者の感染症スクリーニングに関してこれまで公表された中で最も広範な研究である。
45	ウイルス感染	ProMED-mail 20111217.3621	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。2011年12月、オランダの牧場で奇形のヒツジが生まれる新たな疾患の発生が確認され、ヒツジより新種のウイルスが検出された。このウイルスは2011年8、9月にオランダ及びドイツでウシの下痢症の原因となったウイルスと同一であることが判明した。オルソブニヤウイルス属のウイルスであり、Schmallenberg virusと命名された。
46	ウイルス感染	ProMED-mail 20111221.3645	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。オランダ国立保健医療環境研究所によると、2012年12月にヒツジでのアウトブレイクが起きたSchmallenberg virusについて、人獣共通感染症である可能性は除外できないものの、ヒトの感染は知られておらず可能性は低いと発表された。
47	ウイルス感染	ProMED-mail 20111225.3671	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。2011年12月23日現在、オランダの4つの牧場においてヒツジにSchmallenberg virusが検出されており、33か所の牧場において疑い例が報告されている。専門家はウイルスに対する適切な対応が必要であると警告している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
48	ウイルス感染	ProMED-mail 20111228.3698	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。家畜のSchmallenberg virus感染が広まっている問題で、フランドル動物健康センターは感染疑いのあるヒツジの胎児及び仔ヒツジの検査を行った。その結果、フランドル東部の5つの牧場から得られた7例の脳組織からSchmallenberg virusが検出された。
49	ウイルス感染	ProMED-mail 20120103.0019	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。家畜のSchmallenberg virus感染が広まっている問題で、オランダのオーフェルアイセル州において初めてヤギの感染が確認されたことを政府当局が発表した。感染疑いのヤギ牧場はもう1か所あり、現在調査中である。現在までにヒツジにおいてSchmallenberg virusが検出された牧場は33か所に増加している。家畜に先天奇形の出産が報告された牧場は126か所であり、内訳はウシ49か所、ヒツジ75か所、ヤギ2か所である。
50	ウイルス感染	ProMED-mail 20120107.1002681	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。オランダにはウシ約390万頭(牧場39,300か所以上)、ヒツジ100万匹以上(牧場30,300か所)、ヤギ40万匹(牧場16,000か所)が存在するが、事故等報告制度はすべての保有者に課されている。2012年1月5日までに、Schmallenberg virus感染症疑いの報告は農場157か所から受理しており、内訳はヒツジ90か所、ウシ61か所、ヤギ3か所である。
51	ウイルス感染	ProMED-mail 20120110.1006132	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。ドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州において、6か所の牧場より提出された12例のウシの検体がSchmallenberg virusに陽性と確認された。また、ノルトライン＝ヴェストファーレン州及びニーダーザクセン州の14の牧場から、奇形を有する仔ヒツジの脳においてSchmallenberg virusが検出された。2011年夏/秋の母体の妊娠早期の感染が、奇形の原因であると推測されている。
52	ウイルス感染	ProMED-mail 20120111.1007296	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。家畜のSchmallenberg virus感染が広まっている問題で、EUの食物流通及び動物の健康に関する常任委員会(SCoFAH)は、本ウイルスが人に病気を起こすことは考えにくいと完全にそのリスクを除外できない旨の見解を発表した。動物間の直接的な感染はなさそうであるが、このウイルスは他の類似ウイルスと同様に母畜から子宮内経路により新生児へ垂直感染をおこす。このウイルスが昆虫媒介によって伝播されるとの予測を考えると、冬季に更なるウイルスの循環が起こることは考えにくいと、EU加盟国と欧州委員会はフィールド調査とウイルスの検査を継続する事が必要であるとされた。
53	ウイルス感染	ProMED-mail 20120113.1010140	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。国際獣疫事務局(OIE)の発表によると、ベルギーにおけるSchmallenberg virusのアウトブレイクについて、2012年1月12日現在14の牧場で感染(疑い)が報告されており、ヒツジにおいて感染疑い758例、感染確認27例、死亡27例である。見掛け有病率は3.5%、同致死率は3.5%と計算された。なお、人畜共通感染症の影響はないとされている。
54	ウイルス感染	ProMED-mail 20120117.1012402	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。ベルギーの獣医農薬研究所によると、2011年12月に初めて確認されて以来、ベルギーで反芻動物の流産、死産、先天奇形が報告された農場の数が増加し続けている。2012年1月16日現在、ウシで13か所(Schmallenberg virusは全て陰性)、ヒツジで34か所(23か所が陽性)、ヤギで2か所(全て陰性)である。農場レベルで、陽性仔ヒツジを産む雌ヒツジは平均約32%であると計算された。
55	ウイルス感染	ProMED-mail 20120119.1015883	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。オランダ動物衛生局は、最も楽観的なシナリオによると、Schmallenberg virusが原因の先天奇形の仔ヒツジは2012年2月以降産まれないとの考えを公表した。感染の大部分が、2011年8月～9月にかけて発生したと考えているとした上で、仔ヒツジに奇形が発生する可能性が最も高いのは、妊娠25日目から50日目までにウイルスに感染したヒツジである、と説明された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
56	ウイルス感染	ProMED-mail 20120123.1019416	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。英国で初めてSchmallenberg virusが特定された。2012年1月23日、英国の動物衛生・獣医学研究所(AHVL)は、国内で奇形を伴って産まれた仔ヒツジからSchmallenberg virusが検出されたことを公表した。ウイルスが検出されたのはNorfolk、Suffolk及びEast Sussexの計4か所の牧場で誕生した仔ヒツジである。
57	ウイルス感染	ProMED-mail 20120126.1023247	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。2012年1月26日、フランスにおいて初めてSchmallenberg virusの感染疑い例が報告された。フランスのローヌ地方の2か所の牧場において、ヒツジ2例に感染疑いが持たれている。現時点でワクチンはない。
58	ウイルス感染	HPS Weekly Report. 5 Jan, 2012	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。2011年11月にウシから発見されたSchmallenberg virusが、子宮内感染により仔ヒツジに先天奇形を起こすとの報告が欧州で多数なされている。欧州疾病対策センター(ECDC)は最近のエビデンスに基づき、このウイルスと、ウシ等の家畜で認められた発熱、下痢、食欲不振や乳の生産量低下との間の因果関係について確定も除外もできないと述べている。疫学的、免疫学的及び微生物学的調査がドイツとオランダで進められている。なお、これまでに遺伝的に類似したオルソブニヤウイルスが原因となってヒトに疾患が発生したことはない。
59	ウイルス感染	http://www.rivm.nl/dsr/essource?objectid=rivmp:60483&type=org&disposition=inline	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。2011年夏、ドイツ及びオランダでウシに発熱、泌乳量の低下、下痢などを発現する疾患が報告され、その後、オランダにおいてヤギの胎児奇形が報告された。2011年11月にドイツの研究者は罹患したウシ及びヤギの検体からオルソブニヤウイルスに属する新規ウイルスを発見し、Schmallenberg virusと命名された。現時点ではヒトに疾患を引き起こしたとの報告はない。しかし、本ウイルスのヒトに対する危険性について評価されたところ、本ウイルスが属するSimbu血清群やオルソブニヤウイルス属には人畜共通感染症の原因ウイルスが含まれていること、遺伝子の組換えにより保有宿主の変化が引き起こされる可能性があることから、本ウイルスも潜在的な人畜共通感染症の可能性は排除できないと報告されている。
60	ウイルス感染	http://ec.europa.eu/food/animal/diseases/scmallenberg_virus/docs/information_1818_note_240112_en.pdf	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。2011年11月から2012年1月までに欧州において反芻動物の間で未知のウイルス感染の流行が報告された。Schmallenberg virusと名付けられ、ブニヤウイルス科のSimbu血清群ウイルスに属することが示唆された。Simbu血清群ウイルスが欧州で分離されたのは初めてのことであり、Schmallenberg virusがヒトに感染し疾患を引き起こすとのエビデンスはないが、欧州疾病予防管理センター(ECDC)は現時点で除外はできないと評価している。
61	ウイルス感染	http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/pdf/120208_schmall.pdf	欧州における新規ウイルス疾患に関する報告。欧州で報告されている反芻動物のSchmallenberg virus感染について農林水産省が概要を発表した。2012年2月6日までに、欧州5か国のウシ、ヒツジ及びヤギにおいて発生が確認されており、下痢、高熱、乳量低下、産子異常等の症状が確認されている。RT-PCR法によるこれまでの遺伝子解析の結果、本ウイルスはブニヤウイルス科オルソブニヤウイルス属のうちSimbu血清群に属する新たなウイルスと見られており、血清学的手法(抗体検査等)は確立していない。感染経路は不明であるが、EUのステートメントによると、ベクター媒介グループに属しているが子宮内での感染も成立するとされている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
62	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia. 17(2011)931-937	英国の先天性出血性疾患患者におけるvCJD感染リスクに関する報告。英国血友病センター医師機構(UKHCCDO)により、供血後vCJDを発症した8人のドナー由来血漿を含む1987-1999年の25バッチの何れかの血液凝固因子製剤の投与を受けた先天性出血性疾患患者におけるvCJD感染リスクが推定された。787例の患者はプロスペクティブに10-20年間調査され、総vCJD感染性は薬剤の総投与量から推測される累積感染性から推算された。薬剤の投与を受けてから13年以上追跡調査された604例における推定vCJDリスクは595例が1%以上、164例が50%以上、51例が100%という結果であった。これらのリスクが食事によるリスクに上乗せされる。なお、94例は供血後6ヶ月以内に臨床的なvCJDを発症した供血者由来のバッチを投与された。2009年1月1日現在、これらの患者でvCJDを発症した患者はいないことは、血漿画分の感染性が過度に見積もられているか、血球製剤の受血者よりも潜伏期間が長いことが原因であると考えられる。
63	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)158-159	BSEのウシから発見された新規プリオン蛋白に関する報告。2011年4月と5月に、スイスにおいてBSE陽性となったウシ2例より分離されたプリオン蛋白(PrPres)について、エピトープマッピング解析とウエスタンブロット解析を組み合わせて行ったところ、既存のプリオン(G-BSE、H-BSE、L-BSE)とは異なったN末端切断のPrPresが示された。このことから、スイスで発見されたウシ2例が既存の型とは区別されるBSEに罹患していたことが示唆された。現在、確認のためにトランスジェニックマウス及びウシを用いてin vivo試験が実施されている。
64	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20120104.0027	各国における2012年1月時点でのプリオン疾患発生状況の報告。 英国:国立CJDサーベイランス研究所によると、2012年1月4日現在の異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)確定または疑い症例の合計は176例である(生存0例/死亡176例)。全てのCJDについては、2011年の1年間で148例報告され、死亡者数は、弧発性CJDで74例、ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病(GSS)で2例、家族性CJDで9例、vCJDで5例、医原性CJDで3例であった。 韓国:2011年11~12月、第1、2症例目の医原性CJDが報告された。韓国疾病管理予防センターによると、これらの患者はそれぞれ1987年と1988年に脳外科手術を受け、その際、ドイツで生産された人工硬膜であるLyoduraが使用されていた。
65	レンサ球菌感染	Lancet. 378(2011)960	タイにおける新規血清型ブタ連鎖球菌感染の報告。タイにおいて、これまでに報告のない血清型のブタ連鎖球菌感染症が2例報告された。1例目は66歳男性、ブタ生肉の摂食習慣があるアルコール性肝硬変患者で、発熱と腹水貯留から特発性細菌性腹膜炎と診断された後に分離菌がブタ連鎖球菌(血清型5)と同定された。2例目は62歳の女性、特発性細菌性腹膜炎を繰り返し発症した肝硬変患者で、発熱、黄疸、腹水を認め、敗血症を診断された。分離菌はブタ連鎖球菌(血清型24)と同定された。2症例は共にセフトリアキソンの投与により回復した。タイやベトナムでは、ブタ生肉の摂食後にブタ連鎖球菌感染症が報告されている。
66	炭疽	ProMED-mail 20111110.3336	ルーマニアにおける炭疽の報告。2011年10月、ルーマニア南東部の村で、2例の炭疽感染が確認された。1例は、皮膚炭疽と炭疽菌性髄膜炎を発症し死亡したが、もう1例は皮膚炭疽の患者だった。いずれの患者も、炭疽菌感染のウシと、その処分や肉の摂取による接触があったことが確認された。
67	結核	http://www.ashburtonguardian.co.nz/news/today-news/5928-tb-infected-cattle-slaughtered.html	ニュージーランドにおけるウシ結核の報告。ニュージーランド動物衛生当局は、Mt Algidusにおいてウシ結核に感染したウシがCanterburyの中心部及び北部の農場へ移動したが、直後に検出され処分されたと発表した。3つの農場において10例の罹患ウシが発見され、処分されている。Mt Algidusでは更に多くの罹患ウシが処分されたとみられているが、具体的な数は公表されていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
68	大腸菌性胃腸炎	共同通信 (2011年12月15日配信)	ウシ肝臓における腸管出血性大腸菌O-157に関する報告。厚生労働省による全国16自治体の食肉衛生検査所の調査により、ウシの肝臓内部からO-157が初めて確認されたことが分かった。約150頭のウシのうち2頭の肝臓内部からO-157が検出された。厚生労働省は生レバーの提供を禁止するかどうか検討している。
69	大腸菌性胃腸炎	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会乳肉水産食品部会資料 (2011年12月20日開催)	ウシ肝臓における腸管出血性大腸菌O-157に関する報告。厚生労働省による全国16自治体の食肉衛生検査所の調査により、ウシの肝臓内部からO-157が初めて確認されたことが分かった。約150頭のウシのうち2頭の肝臓内部からO-157が検出された。厚生労働省は生レバーの提供を禁止するかどうか検討している。
70	サルモネラ	http://www.stuff.co.nz/taranaki-daily-news/news/6129273/Cattle-disease-puzzle-for-vets	ニュージーランドのウシにおけるサルモネラのアウトブレイクに関する報告。ニュージーランドのタラナキの農場において、サルモネラのアウトブレイクが発生した。2011年12月13日までにウシ数百例が感染し、20例が死亡した。3例の確定例がある。
71	サルモネラ	ProMED-mail 20111220.3639	ニュージーランドのウシにおけるサルモネラのアウトブレイクに関する報告。2011年春に行われた調査で、ニュージーランドのウシにおけるサルモネラ症発生の全体像に変化が見られた。ウシではあまり報告されなかったことのない血清型のサルモネラ症の報告が増加し、感染確定症例数も穏やかに増加している。
72	梅毒	Medical News Today. Nov 17, 2011	米国における梅毒発生状況の報告。疾病管理予防センター (CDC) の報告によると、2006年から2010年まで、米国における梅毒の症例数は36%増加した。特に、若いアフリカ系男性においては135%増加していた。CDCは、同性間性交渉のある男性は3か月に一度STDのためのスクリーニング検査を受けると勧告している。
73	細菌感染	J Wildl Dis. 48(2012)201-206	太平洋北西部の海洋哺乳類におけるCoxiella burnetii感染の報告。米国において、海洋ほ乳類の胎盤でQ熱を引き起こすC. burnetii感染が報告されている。そこで太平洋北西部のゼニガタアザラシ、ネズミイルカ及びビトドの胎盤検体について調査すると同遺伝子が確認された。また、ゼニガタアザラシ215例の血清学的検査を行ったところ、34.0%が抗C. burnetii抗体陽性であった。これらの結果より太平洋北西部の海洋哺乳類におけるC. burnetii感染が一般的であることが示唆された。
74	細菌感染	ProMED-mail 20111028.3207	欧州における新規のダニ媒介性感染症に関する報告。2009年夏、スウェーデンにおいて下肢や肺に血栓を生じる新たなダニ媒介性感染症が確認され、現在までに欧州で8例が報告されている。いずれも免疫機能に問題のあった患者であった。原因となる細菌名Candidatus Neoehrlichia mikurensisからこの疾患は "neo disease" と呼ばれ、長引く高熱、咳、痛みなどのインフルエンザ様症状を呈する。抗生物質により治療可能である。スウェーデン南部ではダニの10%がこの細菌を保有すると研究者らは述べている。
75	細菌感染	ProMED-mail 20111105.3299	オーストラリアにおける野兎病の報告。2011年11月4日、オーストラリアのタスマニア州西部において、野兎病が確認されたことが当局から公表された。ポッサムに襲われた女性2例が、野兎病に感染した。患者は軽症型で、創傷部位の皮膚とリンパ節に持続感染の症状が認められたが、現在は完治している。今回の症例は南半球では初めての感染例と考えられている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
76	真菌感染	第67回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会・抄録集. P121	Eutypella scoparialによるヒト感染症例の報告。患者は80歳女性で、血痰自覚し受診したところ、胸部Xp及びCTにて右上葉に結節陰影を認めた。結節は内部構造効果乏しく、辺縁が濃染されて変性壊死傾向強く、また胸膜陥入像があり、肺癌が疑われた。気管支鏡検査を施行したところ、TBLB組織内に肉芽腫瘍性を伴い真菌菌系が認められ、気管支洗浄液よりE. scopariaが培養された。これまでに本真菌が感染症起因菌になった報告はなかった。
77	トリパノソーマ症	ProMED-mail 20111022.3145	米国におけるシャーガス病に関する記事。米国テキサス大学のチームにより、シャーガス病がテキサス南部で広範囲に流行する可能性があるとして発表された。シャーガス病は熱帯の寄生虫症で、致命的な心臓疾患と消化器疾患をもたらす。テキサス州において、2011年は疾患を媒介する昆虫が極めて多いとされた。調査チームは、シャーガス病を州への届出疾患とし、献血前スクリーニングを義務化すべきと主張している。現在、スクリーニングは自発的に行われ、実施率は約65%である。
78	マラリア	Revista do Instituto de Medicina Tropical de Sao Paulo. 53(2011)55-59	ブラジルにおける輸血を介したマラリア感染に関する報告。サンパウロにおいて、民間血液バンクの血液ドナーによるマラリア感染1例が発生した。患者は2008年8月に心臓手術のため輸血を受け、同年10月にマラリアを発症した。患者に他の輸血歴及びマラリア流行地域への渡航歴もなく、赤血球提供者5例を調査した結果1例がPCRによりP. Malariae陽性であった。このドナーはマラリアが散発的に発生している地域を旅行していた。ドナー及びレシipientの治療は成功している。
79	感染	Vet Microciol. 152(2011)411-414	ウシヘモプラズマ症の経胎盤感染に関する報告。Mycoplasma wenyonii及びCandidatus M. haemobosの同時感染が発生しているウシ集団について、母ウシ及びその仔ウシ38例と未受精のウシ17例、ウシ近辺のカ及び吸血バエ311例の血液検体を調査し、それぞれのウシヘモプラズマの経胎盤感染とベクター媒介感染について検討した。その結果、両ヘモプラズマを有する母ウシから産まれた仔ウシの10.5%で少なくとも片方のヘモプラズマDNAに陽性であったことから、これらの病原体の経胎盤感染が示唆された。また、母ウシ及び仔ウシの陽性検体コピー数、未受精ウシでの経時的なコピー数変化から、Candidatus M. haemobosによる菌血症はM. wenyoniiよりも低レベルであることが示された。
80	その他	EMA/CHMP/BWP/360 642/2010, 15 Dec, 2011	欧州の血漿分画製剤の添付文書において感染性病原体に関する警告の標準的な記載を示すガイドラインが改訂された。改訂はイントロダクションのみで、以下の内容が追記された。 ・vCJDについて、本ガイドラインで特定の記述を行うか検討されたが、CHMP Position Statementによる情報提供を継続するとの結論になった。 ・医薬品の添加剤としてアルブミンが使用された場合、アルブミンに関する警告の記載は不要である。
81	その他	Molecular Psychiatry advance online publication. 4 Oct, 2011	アルツハイマー病(AD)のプリオン様伝播に関する報告。アミロイドベータ(Aβ)の蓄積がプリオン様に伝播するかを検討するために、マウスを用いてAD患者又は若年者由来の脳抽出液を脳内に接種して調査を行った。接種後脳内を観察したところ、AD脳抽出液を接種したマウスでは脳内にAβの凝集体が見られ、接種後の時間が経過するとともに増加していた。また、接種部位から離れた領域で病変が認められたが、対照マウスではAβ沈着がみられなかった。この結果より、ADに関連する脳異常の一部はプリオン様の疾病伝播メカニズムによって引き起こされている可能性が示唆された。